

# 特設講座「国際協力とジェンダー」授業実践報告

荻原 万紀子・菊池 美千世・田中 京子

## はじめに

本校では、「特設講座」として既存の教科・科目にあてはまらない内容について、教材開発をねらいとした実験的な科目を複数設置し生徒に選択履修させている。本年度は、「総合的な学習の時間」への移行の意味も含めて2年生を対象として1単位の授業として開設した。1996年から高等学校におけるジェンダーフリーを目指した新しい科目の可能性を探ってきたジェンダー研究委員会は、今回、国際協力の視点からこれを改訂してカリキュラム開発・研究を行うことを目的として本講座を開設した。今日、世界の各地で紛争や貧困などの問題が絶えず、特に女性が困難な状況に置かれることが多い。そうした実態を学び解決に向けての協力について考えることが授業の目的である。同時に、本年度お茶の水女子大学に設置された「子ども発達教育研究センター」のプロジェクトとして、大学教員をまじえた高大連携の研究の一端としても位置づけ、高大連携カリキュラムの開発、研究の一途とすることを期している。大学教員や諸機関の専門家の講義から疑問や関心を喚起された生徒が、自分の課題を設定してそれに取り組み、さらに自分たちの国際協力活動に発展させることを目指すものである。

「総合的な学習の時間」を視野に入れ、複数教科目の教員がチームティーチングを行うこととし、家庭科の田中、国語の荻原、地理の菊池、保健・養護の増田が担当することを予定したが、時間割編成の都合上増田は除かざるを得なくなった。また、プロジェクトの研究協力員として、本学大学院人間文化研究科助手の富山尚子氏が毎回参加し、諸調査に当たられており、その成果は「子ども発達教育研究センター」報告書に掲載される予定であるが、本稿でもその一部を使用した。

## 受講生徒

9名の生徒が選択した。関心の対象が、ジェンダーに関する事柄にある者と、国際協力にある者とはほぼ半々である。移行期にある本年度の2年生は、1年時に特設講座が開講されていないため、「ジェンダー」に関しては系統だった学習をしてきた者はいない。

## 授業計画

上記のような事情を踏まえ、1学期にジェンダーに関する学習を中心に行い、2学期に国際協力の視

点を加え、国際協力の実践活動に発展させていくことを予定し、開講前に資料1の年間授業計画を作成したが、大学教員の都合により後半が予定通りに進まなくなることが年度当初に判明した(資料2)。そのため、国際協力活動を冬休み以降に持ち越さざるを得なくなった。

## 授業の概要

1学期12回(うち、大学教員4回、外部講師1回)、2学期11回(うち大学教員5回、外部講師1回)、3学期5回の授業と具体的な実践活動が行われた。大学教員および外部講師の講義の前後には、富山氏が次のような項目で生徒にアンケート調査を実施した(資料3・4)。

- ・事前アンケート：「題目からどのような内容の話だと思うか」  
「題目について何か知っていることがあるか」  
「授業で何を聞きたい(知りたい)と思うか」
- ・事後アンケート：「授業でどのようなことがわかったか」  
「授業は期待通りであったか(非常に満足～非常に不満足の5段階)」  
「なぜ期待通り(はずれ)だと思ったか」

このアンケートの結果は、授業ごとにまとめて当該講師にフィードバックし、生徒にも配布した(内容の詳細は「子ども発達教育研究センター」報告書を参照されたい)。生徒配布時には、結果を見ながら授業について振り返る時間をとり、それぞれの内容に関する意見交換や補足説明を行った。

## 生徒の取組み

3回のレポートと実践活動を行った。

### ○夏休みレポート

1学期の授業を踏まえて関心を持ったテーマについて調べたことをまとめ、9月に提出、口頭発表を行う。9名のテーマは次の通りである。

- ・ノルウェーの男女平等
- ・タバコにおけるジェンダー
- ・労働における男女差別
- ・ネパールの少女買春
- ・パートタイム労働から見えてくるもの
- ・韓国のジェンダー
- ・開発途上国の教育とジェンダー
- ・メディアとジェンダー
- ・男性学

1学期に学習した授業から触発されたテーマを選んだ者が多いが、「男性学」など独自の観点から

テーマ設定した者もある。調査の到達度は様々であるが、口頭発表は、みな制限時間をオーバーして熱心だった。

#### ○冬休みレポート

「私たちにできる国際協力」について調べたことをまとめ（参考資料一覧と関係諸機関のURL一覧を事前にプリント配布）、1月に口頭発表する。「私たちにできる国際協力」は、自分や本校生徒たちが実際に行うことを前提とする。9名の調査結果は次の通りである。

- ・JVC国際協力カレンダー発送作業の手伝い
- ・各種協力活動
- ・JICAおよびNGOの活動について
- ・JOICFPの活動について 特に書き損じ葉書の収集
- ・書き損じ葉書の収集（2名）
- ・シャンティ国際ボランティアの活動 特に絵本を送る活動
- ・途上国に学用品を送る活動
- ・チェルノブイリについて

上に見るように、NGOの活動として書き損じ葉書の収集を挙げたものが多く、「私たちにできる」現実的な判断を示した者が多い一方、学校建設といった大規模な活動を挙げた者もあり、現実認識と意欲の現れ方の差が見られた。

#### ○実践活動

本講座として協力活動を実践する。

まず、上の発表を踏まえて話し合った結果、ユニセフ募金への協力を決定した。全生徒と教員対象に趣旨説明のプリントを作成、配布した上で、校内で2日間、大学構内で2日間募金活動を行った。

上述のように、レポートでは書き損じ葉書を挙げてきた者が多かったが、話し合いの中で、書き損じ葉書は集められる枚数が少なすぎる、また、援助物資を送るよりも利用価値の高い現金での援助の方が有効である、募金は理解を得られやすい、等の理由で募金活動に決定した。

#### ○学年末レポート

- 1 1年間の授業で最も興味を持ったことについて更に調べる、または活動をし、その内容をまとめる。
  - 2 ユニセフ募金活動を通して考えたことを記す。
  - 3 1年間の授業を通して勉強したこと、思ったこと等を自由に記す。
- 1～3をレポート用紙3枚以上にまとめる。

9名のテーマは次の通りで、ちょうど2月3日に本学で行われたアラブ諸国女性訪問団との意見交換会の報告や、その内容および2学期の講義に関心を触発されたテーマの調査が目立つ。

- ・イスラムについて調査報告

- ・中東について調査報告
- ・インドの女性について調査報告
- ・アラブ諸国女性訪問団との意見交換会参加報告（3名）
- ・「国境なき医師団」訪問報告（2名）
- ・「ユニセフ子どもワークショップ2003～子どもの人身売買とわたしたちにできること～」参加報告

## 反 省

多くの大学教員や外部講師の参加を得て、受講生徒はジェンダーと国際協力について関心の幅を広げると同時に、学問・研究のあり方に接することができた。講義のテーマや自分の研究テーマを、最終レポートに発展させる者や進路選択に生かすことを考えている者も多く、高大連携カリキュラムとしてある程度の成果が得られたものと言えよう。その反面、1時間の授業では、せっかく専門的な講義を聞いても、時間切れで中途半端になったり話し合いの時間が取れないまま内容が深められずに終わったりする弊害があった。これは、授業に参加いただいた大学教員の人数がやや多すぎ、授業前の予備知識の確認・補充、授業後の疑問点解決や議論の深化に十分な時間を割くことができなかつたためでもある。大学教員の授業の合間に質問や議論の時間を設けたが、内容を深めるには時宜を失っている場合もあり限度があった。

1年間の授業を通して生徒は、ジェンダーについては、「1年前は「ジェンダー」という言葉の意味すら知らない状態だったので、考え方が以前と変わったとかはなかったけど、授業を通してジェンダーについての様々な見方からの知識が増え、自分の考えも漠然とだけど持てるようになった。」「1年前にはまだジェンダーの表面的な部分しか分かっていなかったの、1人1人が意識を変えようと思えば簡単にジェンダーを無くすことができると思っていました。しかし、この1年間ジェンダーを深く学べば学ぶ程、無くすのは大変困難だと思うようになりました。思っていたよりも、自分たちが暮らしている社会にジェンダーがあると感じている人が少ないという事実を知ったことがその大きな理由です」、国際協力については「1年前は国際協力については何も考えていませんでした。知識もほぼ皆無でした。でも今はそれなりに知識を得て、私なりに少しずつ考えるようになってきました。本当の意味で“国際協力”をして、少しでも人の役に立てるためにも、まずは“共感できる人”になることを目指したいと思います。」「私は今まで国際協力は成功しなければ意味がないと思っていました。そのため、成功するということはめったになく失敗しながらもゆっくりと取り組んでいくことが大切だということが分かったことは私にとって大きな変化でした。」など、それぞれ考え方を改めたり、深めたりすることができたようである。

また、本講座のテーマである「国際協力とジェンダー」については、「私は最初に「国際協力とジェンダー」という授業名を聞いて、“国際協力とジェンダーにどんなつながりがあるのだろう”と思っていたが、授業を通して、国際協力においては、女性への教育を促進するなど女性のエンパワーメントが

重要なキーワードとなるのだと感じ、それには女性が自発的に活動しなければならないと思った。」「今まで国際協力というと、お金や物資など目に見える協力しか頭に浮かばなかった。でも、学んでいくにつれて、それが宗教などの人々の精神にも関係するものであり、だからこそ単純ではなく、とても大変なことなのだわかった。特にジェンダーと国際協力を同時に考える時、このことを感じる。風習や生活様式も、当人たちにとっては当然のことで、何とも思っていないということもある。しかし、それだからそのまま放っておいてもいいだろうという問題でもないはずである。だからといって、私たちが「あなたたちは間違っている」と言って、彼らの思想を踏みにじるのは絶対によくないし、反感を受けただけで、意味のある国際協力とはかけ離れてしまう。この点が本当に難しいのだと痛感する。」というように、国際協力におけるジェンダーの視点の重要性を理解できた生徒がいる一方、「[「ジェンダー」と「国際協力」を同居させることに無理がある。それぞれ特設のテーマとして必須なのだろうが、それを融合させるというのは難しかったように思う。』という者も1名ながらおり、より有機的な授業構成の必要性を感じている。

## おわりに

2003年度は、1年生を対象とした「総合的な学習の時間」に、基礎的な内容を扱う「ジェンダーフリーを学ぶ」を併設し、グローバルな視点も含んだ2年生対象の本講座との二本立てで実践研究を進める。いずれも本年度の反省をふまえ、講師数を絞り、講義の前後に題目・内容に関する生徒の話し合いの時間を確保した年間計画の作成が必要である。2004年度には1、2年生とも「総合的な学習の時間」として設置されることになり、高大の連携を密にするとともに、学年間の連絡・調整も計りつつ、より有効なカリキュラムの研究、開発に当たりたい。

## 2年特設科目 「国際貢献とジェンダー」授業案

学期	月	回	授 業 内 容	連 携 ・ 備 考
1	4	1	ジェンダーとは	
		2	ジェンダーの視点から社会を見直す	
	5	3	ジェンダーの視点から見る先進国の現状と課題	ジェンダー研究センター、 生活科学部の先生方・院生
		4		
	6	5	ジェンダーの視点から見る発展途上国の現状と 課題 ①個人や家庭・地域社会の問題として (現状・課題とその文化的・社会的背景) ②グローバルな問題として ③各国政府の取り組み	ジェンダー研究センター、 文教育学部、生活科学部の 先生・院生・留学生 学外の特別講師(当該地域 の研究者・関係者・専門家)
		6		
		7		
		8		
	7	9	体験談を聞く (JICA、UNICEF、NGO関係者など)	
		10		
		11		
2	9	12	夏休み課題の発表	
		13	発展途上国の課題と国際協力 ①政府・国際機関の取り組み (JICA、UNICEF、UNHCRなど) ②NGOなどの取り組み	学外の特別講師(当該地域 の研究者・関係者・専門家)
		14		
	10	15		
		16	私達にできることを考えよう	
	11	17	協力活動の準備と実践	学外の特別講師(当該地域 の研究者・関係者・専門家)
		18		
		19		
	20	2学期のまとめ 冬休み課題の確認		
3	1	21	冬休み課題の発表	
		22	協力活動の実践	
	2	23	協力活動の反省と発信 活動のまとめと反省 活動報告と活動拡大のための発信	
		24		
		25		
	3	26	1年間のまとめ	

## 2年特設科目 「国際協力とジェンダー」 授業計画

回	月	日	授 業 内 容	連 携	備 考
1	4	9	ガイダンス・自己紹介		
2		16	ジェンダーとは		
3		23	ジェンダーの視点から社会を見直す ジェンダーの視点から見る先進国の現状と課題	ジェンダー研究センター、生活科学部の先生方・院生	御船美智子先生「はたらくこと・お金・家計とジェンダー」 牧野カツコ先生「世界の家族とジェンダー」
4		30			
5	5	7	ジェンダーの視点から見る発展途上国の現状と課題 ①個人や家庭・地域社会の問題として (現状・課題とその文化的・社会的背景)	ジェンダー研究センター、文教育学部、生活科学部の先生・院生・留学生	館かおる先生「ジェンダーセンシティブな国際協力とは？」
6		14	②グローバルな問題として	学外の特別講師(当該地域の研究者・関係者・専門家)	内田伸子先生「会話に見られる性差——会話は権力の具現装置か?——」
7		21	③各国政府の取り組み		体育祭予行
8		28			短縮授業
9	6	4			2 K農場
10		11	体験談を聞く(準備を含む) (JICA、UNICEF、NGO関係者など)		2 K農場予備
11		18			村上薫氏(アジア経済研究所)「トルコの女性労働とジェンダー規範」
12	7	2	体験談を聞いて(感想・討議)		2年農場
13		9	夏休み課題の確認(個人調査)		2年農場予備
14		16	1学期のまとめ		2 U農場
15	9	3	夏休み課題の発表		
16		10			
17		17	発展途上国の課題と国際協力 ①政府・国際機関の取り組み (JICA、UNICEF、UNHCRなど)	ジェンダー研究センター、文教育学部、生活科学部の先生・院生・留学生	戒能民江先生「台湾の女性…対暴力」
18	10	8	②NGOなどの取り組み	学外の特別講師(当該地域の研究者・関係者・専門家)	箕浦康子先生「バングラデシュの教育支援」
19		15			伊藤るり先生「インド」 or「政府の取り組み」
20		29			
21	11	2			公開教育研究会(2時間) 波平恵美子先生「医療協力とジェンダー」
22		5	私達にできることを考えよう		
23		12	協力活動の準備と実践		
24		19			三浦徹先生「イスラム世界のジェンダー問題」
25		26			外部講師
26	12	3	冬休み課題(実践活動)の確認・2学期のまとめ		
27	1	14	冬休み課題の発表		
28		21			
29		28	協力活動の反省と発信		
30	2	4	活動のまとめと反省 活動報告と活動拡大のための発信		
31		18	1年間のまとめ		レポート・感想提出

## 2年特設講座 「国際協力とジェンダー」 授業実施状況 (2002年度)

回	月	日	授 業 内 容	備 考
1	4	9	ガイダンス、自己紹介、意識・希望調査	
2		16	ジェンダーとは	
3		23	御船美智子先生「はたらくこと・お金・家計とジェンダー」	
4		30	牧野カツコ先生「世界の家族とジェンダー」	
5	5	7	館かおる先生「ジェンダーセンシティブな国際協力とは？」	
6		14	内田伸子先生「会話に見られる性差——会話は権力の具現装置か？——」	
		21	(なし)	体育祭予行
7		28	生物学的な男女の違い(染色体・脳・ホルモン等)	短縮授業
8	6	4	大学の先生方の話を聞いての感想、疑問に思ったこと等	
9		11	上記について、2グループに分かれて話し合い	
10		18	村上薫氏(アジア経済研究所)「トルコの女性労働とジェンダー規範」	
		25	(なし)	期末テスト
	7	2	(なし)	2年農場
11		9	ジェンダーセンシティブな国際協力の必要性について(館先生補足)	短縮授業
12		16	(前回を受けて)インドの婚姻・教育に関する女性の地位 アフガン関係の話	短縮授業
13	9	3	夏休み課題の発表	短縮授業
14		10	同上	短縮授業
15		17	戒能民江先生「ドメスティック・バイオレンスと台湾の女性」	短縮授業
16	10	8	箕浦康子先生「 Bangladesh の教育支援」	
17		15	伊藤るり先生「インドの自営女性労働者協会(SEWA)の取組みに学ぶ」	
		22	(なし)	中間テスト
18		29	これまでの学習を通して感じたこと・考えたいこと(発表) 国際協力のあり方について(多少の話し合い)	
19	11	2	波平恵美子先生「国際協力の視点——医療協力とジェンダー——」	公開教育研究会
20			質疑・話し合い	
21		5	話し合い(この授業のあり方について)	
22		12	協力活動の準備と実践	
23		19	三浦徹先生「日本の中東・イスラム認識とジェンダー」	
24		26	鈴木良一氏(ジョイセフ)「国際協力とジェンダー」	
25	12	3	2学期のまとめ・冬休み課題(私たちにできる国際協力)の確認	
		10	(なし)	期末テスト
26	1	14	冬休み課題の発表	
27		21	同上・実践活動に向けて→ユニセフ募金に決定	
28		28	実践活動の発信 レポートの確認	1/29~31 募金活動 2/3 アラブ女性との意見交換会
29	2	4	ユネスコの話・アラブ女性との意見交換会出席者報告	
		11	(なし)	建国記念の日
30		18	1年間のまとめ・意識調査・授業についてのアンケート	レポート・感想提出締切りは3/10
		25	(なし)	大学入試 授業なし
	3	1	(なし)	期末テスト





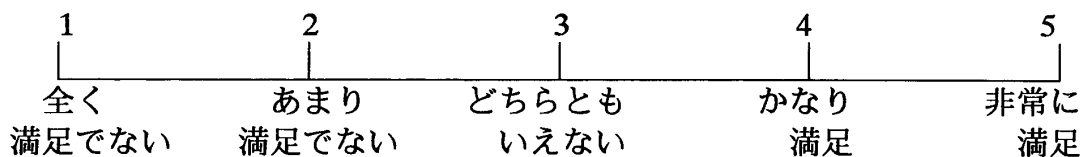
「国際協力とジェンダー」授業についてのアンケート（2）

2年 組 氏名

月 日                      先生 「                      」

・「                      」の授業を受けてみて、どのようなことがわかりましたか。授業前に期待していた内容と比べて何か違いがありましたか？

・ 授業は、あなたにとってどのくらい満足なものでしたか。



・なぜ、満足だ（もしくは満足でない）と思いましたか？